



第1回

2024年10月22日(火)
18:30 ~ 21:00 @おにクル2階

令和6年度から7年度にかけて、茨木市としての共創の方向性を定めるために、「茨木共創部」を立ち上げました。「茨木共創部」は、市民、事業者、大学の皆さんと一緒にアイデアを出し合って、みんなで小さく企画を実施してみる部活動です。1回目は、事業の説明と部活動の4つのテーマを発表。興味のあるテーマでチームをつくりました。



1 開会の挨拶（共創推進課長 向田より）

ここ最近、あちこちで「共創」という言葉が使われていますが、言葉のイメージは人それぞれですね。10年くらい前は公民連携としての文脈が中心で、おにクルのような市民参加のイメージは薄かったと思います。では行政が「共創」を重視するようになったのはなぜか？それは、人口減少の時代において、まちが元気であるためには、活動する人の数（＝活動人口）が重要であるという考えが背景にあります。おにクルをつくる過程でたくさんの方に関わっていただいたことで、おにクルは施設もそこで起こる活動も素晴らしいものになりました。茨木らしい共創の姿が垣間見えたとしますし、この多様な主体による活動を、市全

体に広げていきたいと考えています。課題解決からはじめる協働と違い、共創のきっかけは、楽しいこと、興味のあることでもよいと思います。企業のビジョン・ミッション、大学なら研究や学びでもOKです。共創は、多様な人のつながりやアイデアの掛け合わせから生まれます。そのような取り組みは、一緒に考えて一緒に進めるという過程を共有することで、「いいね」という共感につながります。今回の取り組みでは、市民の皆さんだけでなく、様々な主体の方にも参加いただいています。プロセスを共有し共感を生み出す中で、共創を進める新たな気づきなどが得られれば幸いです。

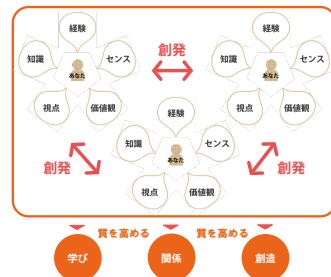
2 レクチャー「楽しく豊かに暮らしていくための共創」（studio-L 醍醐より）

□ 共創とは

共創には、異なる立場や業種の人・団体など多様な関係者が協力・対話しながら、ともに新しい商品やサービス、価値を生み出していくという考え方は、一人一人の経験や知識、価値観やセンスなどを参加者同士が相互にやりとりすることで、学びの質は高まり、関係の性が深まって、さらに創造の質があがります。

□ 東京都墨田区食育推進計画の事例

平成23年の第二次計画策定では、区民だけではなく、大学や事業者などが参加してワークショップを実施しました。既にそれぞれの主体が取り組みを進めていたので、「手間をかけてみんながつながる」、「食で育てる」を大切にする考え方のもと計画策定を進めました。結果、墨田区オリジナルカレーを事業者の社食で提供するなど各主体が連携した展開が生まれました。



3 ブレイクタイム「共通点さがし」

茨木共創部には、市民、事業者、大学、行政など様々な方が参加しています。皆さんで2人1組になり、相手を変えながら3つのテーマでお互いの共通点を探すゲームをしました。〔いつも携帯しているもの〕〔冷蔵庫に入っているもの〕〔この1週間に立ち寄ったところ〕でどれだけ多くの共通点を見つけられるかを競いました。10個以上の共通点を見つけたペアもいて、所属を越えてお互いを知る機会になりました。



4 茨木版共創のケーススタディ

共創の取り組みを実験的に進める上で、あらかじめ事業者や地域からテーマを出してもらい、提案者から説明してもらいました。今年度の共創部では4つのテーマで取り組みを進めます。

- テーマ① 組合員の誤注文による食品ロスの有効活用を考えたい！（よどがわ市民生活共同組合）
- テーマ② 茨木といえば“コレ”をつくりたい！（茨木商工会議所）
- テーマ③ 茨木のさまざまな地区が連携しておにクルで防災の催しをしたい！（東奈良小学校区自主防災会）
- テーマ④ みんながおにクルを気持ちよく使えるようなマナーを考えたい！（おにクル）

5 ワールドカフェ 時間を区切って参加者が自由にテーブルを移動するワールドカフェ形式で意見交換をしました。

テーマ①

誤注文などにより返品されて廃棄する食品が年間7tにのぼることや、特にお酒のストックが増えて困っていることなどの現状を共有しました。誤注文を減らす取り組みと併せて、廃棄されてしまう食材を大学生の朝ごはんとして活用する、コンポスト化して生産者にお返しするといったアイデアが出ました。



テーマ②

古墳に銅鐸、城や歴史上の人物などマニアックな話や、茨木には実は…という視点もおもしろいのではという意見がありました。各自推しのお店があるので、店員に会ってみるなど、対面でつながることで可能性が広がりそうという意見も出ました。さらに、老若男女様々な目線も大切だという話にもなりました。



テーマ③

防災に興味を持ってもらうためには、「楽しい」が大切という意見で一致し、こどもや若年層が関心を持って楽しめるしかけ（防災キャンプなど）について話しました。そして、茨木らしい防災イベントに向けて、地域の神社や寺、大学や企業との連携について考えたり、防災食やグッズのアイデアも出し合いました。



テーマ④

物を置いたまま長時間離席する方がいるなど、おにクルの現状を共有しました。そこで、相席可能なゾーンを設定してみる、「こんな感じで使ってほしい」ルールや「〇〇優先デイ」をつくってみる、立ったまま使う机を置いてみるなどのアイデアが出ました。まずは各階の調査が必要という意見もありました。

